



沖縄伝統芸能エイサーを観賞
—北星学園余市高等学校(北海道) 修学旅行から—

平成14年度近畿圏における公立中学校 沖縄修学旅行の動向と15年度以降の予測

～依然として顕著な増加傾向を示す～

一方近畿圏の公立中学校は平成14年度に当初、沖縄を計画している177校(平成13年10月全修協調査の内、およそ20%弱(約30校)

近畿地区公立中学校の修学旅行を多数取扱っている近畿日本ツーリスト株式会社は去る2月上旬、近畿地区から沖縄に行く修学旅行への同時多発テロ事件による影響状況をとりまとめ修学旅行関係箇所を示した。

それによると、テロ事件以後、近畿圏の公立高校で、当初、平成13年秋から年度末までに沖縄を予定していた学校の内、約60%の学校が旅行先を変更している。

また、沖縄修学旅行を変更するであろう公立中学校は、そのほとんどが平成14年の2月及び4月に実施予定していた学校であった。公立中学校の沖縄への修学旅行実施時期は、5月・6月に集中しており、この時期の沖縄修学旅行を計画している学校は、沖縄修学旅行の安全性がほぼ回復され

の学校が、九州、関東、信州へと旅行先を変更するものと推測される。従って、沖縄への修学旅行実施予定校は当初の80%程度(約145校)と見込まれる。

また、沖縄修学旅行を変更するであろう公立中学校は、そのほとんどが平成14年の2月及び4月に実施予定していた学校であった。公立中学校の沖縄への修学旅行実施時期は、5月・6月に集中しており、この時期の沖縄修学旅行を計画している学校は、沖縄修学旅行の安全性がほぼ回復され

の学校が、九州、関東、信州へと旅行先を変更するものと推測される。従って、沖縄への修学旅行実施予定校は当初の80%程度(約145校)と見込まれる。

また、沖縄修学旅行を変更するであろう公立中学校は、そのほとんどが平成14年の2月及び4月に実施予定していた学校であった。公立中学校の沖縄への修学旅行実施時期は、5月・6月に集中しており、この時期の沖縄修学旅行を計画している学校は、沖縄修学旅行の安全性がほぼ回復され

の学校が、九州、関東、信州へと旅行先を変更するものと推測される。従って、沖縄への修学旅行実施予定校は当初の80%程度(約145校)と見込まれる。

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 鴻田好通
〒102-0074 東京都千代田区九段南
2-6-8 九段南ビル
☎ 03(5275)6651
http://shugakuryoko.com
e-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

財団法人全国修学旅行研究協会(全修協)は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目標として、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団です。

表1 近畿地区公立中学校の沖縄修学旅行推移見込(平成14年2月末現在)
財団法人全国修学旅行研究協会推測(単位:校、人、%)

年度実績・予測	学校数		生徒数	
	前年比	指数 12年=100	(含む引率教員)	1校当たり 平均生徒数
平成12年度実績	87	100	14,700	169
13年度実績	112	129	19,000	170
14年度見込み	145	129	25,000	173
15年度見込み	223	153	38,000	171
16年度予測	320	143	53,800	168

※平成14年度の見込みはテロ以後の調査数値(当初計画校177校)。

の安全対策・誘致政策が講じられた結果、平成15年度以降、沖縄修学旅行が再び急激な伸びを示すものと見込まれる。

また、沖縄修学旅行を変更するであろう公立中学校は、そのほとんどが平成14年の2月及び4月に実施予定していた学校であった。公立中学校の沖縄への修学旅行実施時期は、5月・6月に集中しており、この時期の沖縄修学旅行を計画している学校は、沖縄修学旅行の安全性がほぼ回復され

の学校が、九州、関東、信州へと旅行先を変更するものと推測される。従って、沖縄への修学旅行実施予定校は当初の80%程度(約145校)と見込まれる。

主張

平成14年度が始まった。今更のことではないが、学校教育は完全週5日制のもと、子どもたちに生きる力とゆとりをもたらし、これを目標として、これまでに準備・移行期間を経て、新しい教育活動を取り組む教育活動もあり、学校は更に多くの努力を精力的に続けていかねばならない状況にある。その成否はある面では、学校・教員の自覚と努力に負うところが大きい。しかし、一方では、教育を学校だけのものと

せず生涯学習の観点から、家庭や社会での教育の充実と学校との三者の連携を不可欠なものとしてその推進を図っている。特に地域社会の中でいろいろな人々と交流し、様々な生活体験、社会体験を豊富に積み重ねることができよう。地域社会における教育の活性化を求めている。例えば、ボランティア活動の体験、都市部と過疎地域の交流活動の促進や長期間の自然体験の充実など、体験活動の充実と場が強調されて

修学旅行における体験学習は既に実践段階に入先との合意、事前の確認も含めて、安全安心の観点から、内容・時間・人員など受入側の十分な連絡・調整・合意が必要である。この過程は、体験学習の成否に関わるという発展性が不可欠な

の安全対策・誘致政策が講じられた結果、平成15年度以降、沖縄修学旅行が再び急激な伸びを示すものと見込まれる。

また、沖縄修学旅行を変更するであろう公立中学校は、そのほとんどが平成14年の2月及び4月に実施予定していた学校であった。公立中学校の沖縄への修学旅行実施時期は、5月・6月に集中しており、この時期の沖縄修学旅行を計画している学校は、沖縄修学旅行の安全性がほぼ回復され

の学校が、九州、関東、信州へと旅行先を変更するものと推測される。従って、沖縄への修学旅行実施予定校は当初の80%程度(約145校)と見込まれる。

また、沖縄修学旅行を変更するであろう公立中学校は、そのほとんどが平成14年の2月及び4月に実施予定していた学校であった。公立中学校の沖縄への修学旅行実施時期は、5月・6月に集中しており、この時期の沖縄修学旅行を計画している学校は、沖縄修学旅行の安全性がほぼ回復され

風紋

人々の心を躍らせ、散った花は散った。それでも、新しい学期、新しい心、新しい希望がある。

▲昨今、終身雇用制度は廃れ、会社企業に働く人は自己の能力を最大限に発揮する場を求めて移動しようとしている。農耕民は風水害があっても定住し、地味を肥やし技術を高め収穫を増やし蓄える。終身雇用制はこうした農耕社会から生まれた仕組みといえるが、人を育て人材を蓄える機能もあつた。▲学校が始まる。学校が楽しいのは友達に会えるからであり、先生との出会いがあるからである。その基礎である学級は、ある意味では農耕社会的であり、終身雇用的側面を持つことが大事である。学級担任の役割をこころした面から見直さなければならない。学級崩壊は案外こうした役割を見失った結果ではないだろうか。▲体験ばりの中で修学旅行が始まる。修学旅行自体は体験学習であるが、体験学習が次々という感じで次々という感じで生み出す。そうした体験でなければ意味はない。▲海外修学旅行でコミュニケーション能力不足を実感し、語学への学習意欲を高めたなどよく聞くが、実際にどうやって、人生や生き方を方向づけている。修学旅行での良き体験を期待する。(鴻)

夢感動の修学旅行

人が好き。地球が好き。旅がスキ。

近畿日本ツーリスト

国土交通大臣登録旅行業第20号 (社) 日本旅行業協会会員

楽しい旅に、大きな安心。

「学校旅行総合保険」をおすすめします。

東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)

教育の窓

いよいよ総合的な学習がスタートした。鳴り物入りでマスコミや教育界で取り上げられてから、数年経つ。

「生きる力」の育成に当たり、総合的な学習の時間には大きな期待が寄せられている。

しかし、教科書も少なく、指導内容も具体的に示されていないこの時間を、どう展開していくかは、各学校の裁量に任ざれており、その責任には大きなものがある。

現実の学校の実態は多種多様とも伝えられており、以下の点を確認して取り組む必要がある。

「ねらいを確かめる総合的な学習の時間は「何でもあり」と考えている学校がある。これは誤りである。

「生きる力」の育成に当たり、総合的な学習の時間には大きな期待が寄せられている。

度チェックする必要がある。この「学習」は、取り上げた課題について、何らかの知識を身に付けることが目的ではない。創造的な態度、自己の生き方について考える

学校の中で総合的に働き、その後の学習や生活に生きて働く力となることを期待しているのである。

学習活動は、横断的・総合的な課題（国際理解、情報・環境・福祉・健康など）、児童生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に即した課題などについて展開されるが、あくまでも総合的な学習の時間の趣旨やねらいに即した適切な活動でなければならない。

最近の取り組みでは、単なる体験の導入、興味・関心のみの重視、「国際化」や「特色」に名を借りた受験対策、教科の授業時数不足への補充対策など、誤った対応が目につく。

総合的な学習の出発

東京農業大学教授
元文部省主任視学官



渡部 邦雄

また、これらの課題を具体的に解決することそのものに主目的が、あるのでもない。教科等を横断して、関連づけられ、深めら

学校の自主性、自律性を大切にしながら、教育の専門家集団として「総合的な学習」に関する説明責任を果たし、保護者や地域住民の不安を除き、共感、協力を得て、充実したものにする必要がある。

二 基礎・基本の徹底 「総合的な学習」が成功するか否かは、児童生徒が教科等の基礎的・基本的内容を確実に習得しているかどうかにかかっている。

それなくしては、教科等を横断し、総合的な学習を展開することは困難だからである。教育課程改訂における流行の側面に目を奪われ、不易の部分をお忘れはならない。

東京都の宿泊税は平成14年10月から施行予定 修学旅行への影響は少ないと思われる

東京都が独自に課税する地方税(法定外目的税)として、平成13年12月に東京都議会が可決された東京都宿泊税条例は、ワールドカップ終了後、遅くとも10月からの施行が予定されていることが明らかになった。

東京都が実施予定している宿泊税は、旅行業法に規定されたホテル又は旅館が課税対象施設で、都内のホテル又は旅館の宿泊者に対し、大人、子どもに拘わらず、またパッケージツアーや団体旅行にも一人1泊の宿泊料(食料金を含まない)として、1泊につき1万円以上、10万円以下の場合に課税される。平成14年度における全国の修学旅行人口

東京都の宿泊税額

宿泊料金(一人1泊)	税率
10,000円未満	課税免除
10,000円以上15,000円未満	100円
15,000円以上	200円

団体も例外なく課税対象となるものの、その課税対象をホテル・旅館内での食事を除く宿泊料(室料のみ)としており、現在の修学旅行宿泊料から見ると、都内に宿泊予定しているほとんどの学校の宿泊料金は課税対象外になるものと思われる。

なお、1泊2食1万円以上で宿泊契約している食事込み料金を契約の場合でも、各宿泊施設毎に宿泊料金を宿食費と推計される。東京を中心とした首都圏への修学旅行は、全体としてみると、小学校、中学校では京都・奈良方面に次いで全国で2番目に多いと推計される。詳細は、東京都主税局ホームページを。 URL: <http://www.fax.metro.tokyo.jp/>

平成14年度、関修委事業計画の大筋が固まる

去る2月15日開催された関修委関東地区公立中学校修学旅行委員会(長と財団法人全国修学旅行研究協会)の第5回研究協議会にて平成14年度の事業計画の大筋が固まった。

事業の柱は、①連合体輸送の充実・発展 ②研究活動の充実・推進 ③活動活性化に向けた組織変更と規定整備の実施、④情報連絡ネットワークの構築とした。

特に、新時代の教育改革に対応した修学旅行の改善向上を図るため、組織の活性化にむけて会則の改定をおこなう。(1)関修委組織は、各県(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県)の全設置公立中学校(長と財団法人全国修学旅行研究協会)で構成されることを明確にし、の調査・研究をおこなう。(2)関修委役員(委員を含む)組織・人数の見直し、簡素化をはかり、シンプルで組織づくりをめざすこととなる。研究活動の充実については、(1)第38回修学旅行研究発表会を埼玉で11月15日(金)に開催する。主題は「みんなの修学旅行のしおり」の編集・監修や、各学校の「修学旅行のしおり」の収集・分析により修学旅行の効果を高める事例の研究をすすめることとした。

古代文化 邪馬台国ルート 吉岐へ...

魏志倭人伝に一支国の名で記されている。古代大陸交流の要としてクニを構えていた吉岐。イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。



吉岐教育旅行受入協議会事務局 TEL (092) 281-0831 FAX (092) 281-0444 URL <http://www.kyu-you.co.jp>

九州郵船

未来の体験学習はここにある。

スペースワールド & スペースキヤブ

日本で唯一の本格的宇宙体験施設

スペースワールド®

インフォメーションセンター TEL093-672-3600
団体予約センター TEL093-672-3400
〒805-0002 北九州市八幡東区スペースワールド
<http://www.spaceworld-inc.co.jp/>

●修学旅行/林間学校/スキー体験学習

奥日光の自然と仲間たちとの語らい.....

夏は林間学校、冬はスキー 自然探勝の基地として日光国立公園内にたつ当ホテルをご利用ください

鉄筋3階建/小学生550名/中学生550名/高校生450名収容/大浴場あり

奥日光高原ホテル

〒321-1662 栃木県日光市湯元温泉 TEL. 0288(62)2121(代表)

豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。箱根高原ホテルは、深い緑の中に700名収容の大ホールや、中小の研修室など、数々の施設が整っています。その他体験コースもいろいろ。心にのこる思い出づくり 感動づくりに素晴らしい環境です。

箱根高原ホテル

湖尻高原の大自然に抱かれて ハートフル・コミュニケーションをお約束します。

〒250-0500 神奈川県足柄下郡箱根町湖尻 ☎(0460)4-8595代 FAX.(0460)4-9488